

高大接続の視点から見た中国の大学入学者選抜

張 徳 偉*
夏 日 達 也**

〈要 旨〉

本稿は、中国の大学における入学者選抜をめぐる改革の具体的な内容と若干の特徴として、以下の点を明らかにした。

1. 大学志願者の増加の中で、入学させる学生を適正に選抜することが課題になっている。その課題に対応すべく、多くの大学は全国統一入学試験を主な選抜方法として用いている。
2. 社会的威信の高い大学への入学をめざす受験競争が激化している。その結果、特定の科目に偏った受験準備等の弊害が顕在化している。
3. 政府は事態に対処するため、高級中学の教育や大学の入学者選抜方法について、たびたび改革を行ってきた。高級中学段階では学業水準試験や生徒総合素質評価を、大学入学者選抜方法では推薦入学や自主学生募集などを、それぞれ導入した。
4. 重点大学は優秀学生選抜重視の観点から、大学入学者選抜を活用しており、政府の思惑とは必ずしも一致しない。一部の高級中学も同様であり、重点大学への進学実績向上のため受験指導を強化している。
5. 大学入学者選抜は、社会の指導層となる優秀学生の募集と、大学入学者増加への対応という一見矛盾する課題を抱える。政府や各大学は上記の改革により事態改善をめざしているが、多くの困難に直面している。

*東北師範大学国際・比較教育研究所・教授
名古屋大学高等教育研究センター・客員教授

**名古屋大学高等教育研究センター・教授

1. はじめに

中国では、大学入学者選抜制度は、国の基本的教育制度の一つであると認識されている。中国の大学入学者選抜制度は、「鮮明に中国の特色を持つ基本的な教育試験制度」であり、「影響が相当大きく、万人の注目を浴びる重要な制度」であると言われている（劉海峰 2002）。

入学者選抜は高等教育機関の人材養成の要求に適合する新入生を選抜することである。その際に、「徳・知・体・美を全面的に審査し、総合的に評価し、優秀な新入生を選んで受け入れる」（教育部 2014a）ことが重視されている。徳・知・体・美を総合的に評価するとはいかなることか、なぜこのことが強調されるのか、「優秀な新入生」の選抜をいかに行っているのか。本稿はこれらの問題の解明を試みる。

本論に入る前に、先行研究の状況を述べる。中国では、1970年代末頃から大学入試制度に関する論考は、新聞を中心に発表され始めた。1979年10月、当時中国共産党中央委員会の宣伝部と統一戦線工作部がリードする新聞である『光明日報』は、「『大突撃』 景象散記」という記事を発表した。この中で、北京市内の高級中学で、大学入試に向けて集中的な受験準備教育を行っている様子を「大突撃」として紹介した。これは、「進学率の高さのみを一面的に追求する」ものとして受験準備教育を批判的に報じたもので、事実上初めての記事であった。これ以降、同様の新聞記事が次第に発表されるようになった。

一方、大学入試の政策や制度を取りあげた研究論文は 1980年代および1990年代にはまだ少なく、中国定期刊行物データベース（「中国期刊網」）に収められた教育関係刊行物に毎年 2 本程度が発表されたにすぎない。1998年以降になると次第に増え、特に 2005年以降は数多くの研究論文が発表され、2010年には 95 本に達した。その結果、1977年から 2010年まで各種学会誌などの学術的定期刊行物に発表された研究論文は 369 本を数えている。このほか、2004年から 2010年まで大学入試の制度・政策を扱った修士・博士学位論文（「万方中国学位論文全文データベース」に収められたもののみ）は 68 本ある（論文題目に「大学入試政策研究」という文字が入っているものは 14 本ある（胡金平 2011））。大学入試だけでなく、関連して学生募集に関する研究もあり、これらをあわせると研究成果はかなりの数に達する。

中国の大学入学者選抜問題に関する研究は、中国国内だけではなく日本

でも行われている。日本の代表的な研究は大塚豊によるものである。大塚の著書及び一連の論文（1979、1980、1981、1989、2006、2007）は、建国当初の時期、1952～65年度、文革期、文革直後の1970年代末から1980年代初頭までの時期、1980年代後半以降の各時期における大学入学者選抜の諸問題や動きを分析している。中国の大学入学者選抜の歴史的推移を的確にまとめ、高度の系統性を持っている。南部広孝（2005、2006、2012、2016）は主に、中国の大学入学者選抜制度の歴史的変遷、現行制度の概要、近年新入生募集制度改革の進展、大学入学者選抜制度の諸側面（例えば、全国统一大学入学試験制度や推薦入学制度、自主学生募集制度、体育や芸術に秀でた学生を対象とした選抜）などを述べている。南部の研究は、中国の大学入学者選抜改革の展開を具体的に明らかにしている。2000年代以降は、楠山研と石井光夫という日本人研究者による論文のほか、金愛花、劉海峰、宮玉婷、王允慶・李越、謝妍笑等の中国人研究者による日本語の論文がある。楠山（2005）は権限委譲の視点から中国の大学入試改革の動向を考察している。石井（2014）は、中国の大学入試制度の概要と最近の入試改革を述べた上、学力保証の観点から関連考察を加えている。この2つの研究は、それぞれ独自の視点または観点から中国の大学入試制度改革を考察している。また、金（2006）は中国の大学入試制度の変遷を述べている。劉（2011a）は中国の大学入試制度と基礎教育の関係を分析した。宮（2012）は「自主学生募集」に焦点を当てて中国の大学入試制度改革の現状と課題を考察した。王・李（2013）は歴史を概説し、過去10年における進展状況、重点普通大学の改革実践、高等職業技術学院・専科学校と芸術体育特別推薦入学、評価と展望という5つの面から中国の大学入試制度改革を考察した。謝（2016）は中国の大学入試制度の現状と問題点を踏まえて、近年の新たな動向を指摘している。劉、王・李、謝らは、中国の大学入試に関する問題を幅広く考察している。金や宮は、問題を限定して考察している。

これらの日本語による先行研究では、以下のような特徴を指摘できる。①入学者選抜制度について掘り下げた考察がみられないこと、②最新の政策動向に関する記述が不十分であること、③重点高校・モデル高校における受験指導・支援について考察していないこと等、である。

これらの先行研究の状況や特徴をふまえて、本稿では、高大接続の視点から中国の大学が入学者選抜において受験生の徳・知・体・美を総合的に評価しようとする政策の動向を概観する。また、普通高級中学（特に重点学校）における大学受験指導の状況、及び高等教育機関（特に重点的な研

究大学)における入学後の学生の学習支援の状況を取り扱う。具体的には、以下のように課題を設定する。

- 1) 全国統一大学入学試験、高校学業水準試験、生徒総合素質評価等の概要、及び入学者選抜におけるこれらの利用状況を明らかにする。
- 2) 推薦入学における学科試験と関連審査の内容や実施方法の概要と特徴を明らかにする。
- 3) 難関大学が実施する自主学生募集制度における学科試験と面接試験の内容や実施方法の概要と特徴を明らかにする。
- 4) 難関大学が実施する優秀学生養成プログラムと入学後の学習支援の内容や実施方法の概要と特徴を明らかにする。
- 5) 重点高校における大学受験指導・支援に関する内容と実施方法の内容や実施方法の概要と特徴を明らかにする。

本稿では主に文献研究の方法を用いる。中国政府または地方政府が公布した関連文書を利用するとともに、いくつかの先行研究を参考にする。

2. 大学入学者選抜をめぐる改革 —大学入学の前後

大学入学者選抜は、高級中学の生徒を対象に、主に全国統一大学入学試験（以下、全国統一入試と略。後述）によって行われる。

全国統一入試の出願資格は、教育部が公布した「2014年普通高等教育機関新入生募集規定」により以下のように規定されている。① 中華人民共和国の憲法と法律を遵守すること、② 高級中学段階の学校を卒業するかそれと同等の学力を有すること、③ 身体が健康なこと、である（教育部 2014a、南部 2016: 32）。この3点の出願資格は、若干の字句の変更を除き、2001年以降ほとんど変更されていない。高大接続の視点からみると、②に留意すべきであろう。1977年の大学入学試験で出願要件の一つとされて以降維持されている。これは、高級中学卒業後に直接に大学に進学する道を開くための措置である。文革期には、中等学校卒業後の大学進学が認められず、まず生産労働に従事することが義務づけられた。1977年以降の大学入学試験は、文革期に分断された中等教育と高等教育を接続した（大塚 1981）。

近年、中国では大学進学率の上昇やそれに伴う大学進学者の増加が顕著である。これに伴い、大学入学者選抜が高級中学以下の教育に大きな影響を与えている。各方面から批判が提出されているが、時期によりその内容や重点が異なる。1980年代には「一面的に進学率の高さのみを追求する」

として、受験教育が批判された。1990年代には「受験教育」が激化していることと、試験科目が文系または理系科目に偏ることが指摘された。2000年代以降には生徒の負担が過重であることや、「一回の試験で人生が決まる」ことなどが指摘された。

これらの問題点を是正するために、中国政府は1980年代前半から様々な改革を行ってきた。改革は、高級中学段階の改革と大学入学者選抜の改革に大別できる。以下、本稿では、高級中学段階の改革として高校学業水準試験と生徒総合素質評価を取り上げる。大学入学者選抜の改革として、全国統一大学入学試験の試験科目削減、推薦入学制度、自主学生募集制度等を取り上げる。

2.1 高校学業水準試験

高校学業水準試験は、それ以前に実施されていた高校卒業一斉試験に代わるものとして実施されるようになった。高校卒業一斉試験とは、国家の承認を経て省レベルで実施する普通高級中学の教科課程の達成状況を評価する試験である。高級中学が大学入試対策として、文系または理系の学習に偏重する傾向があったが、その改善を目的とするものであった。1980年代半ばから浙江省や上海市の試行から始まり、その後1993年までに全ての省・自治区・直轄市で実施されるようになった。

高校卒業一斉試験は、試験と「考査」という二つの方式に分けられている。試験の場合は、国語、数学、外国語、政治、物理、化学、生物、歴史、地理の9科目が含まれ、「考査」の場合は、労働技術課程と物理、化学、生物の実験操作が含まれる。体育は、各学校が独自で体育教学大綱に規定される内容について試験を課す（国家教育委員会1990）。これらの試験や考査は全生徒を対象に実施される。この試験の成績が合格基準に達し、同時に思想品德表現や体育も合格基準に達した生徒は、普通高級中学卒業証明書を取得できる。合格できない生徒は、普通高級中学卒業証明書を取得できず、大学入学者選抜試験を受ける資格がないこと等で不利益を被ることになる。

高校学業水準試験は、高校卒業一斉試験に代わるものとして、2004年から一部の省で開始されるようになった。2010年からは多くの地方で実施されるようになってきている。

高校学業水準試験と高校卒業一斉試験は、実施者、受験者、試験内容（科目）など多くの面で一致するが、成績の用途の面で両者には大きな差異が

ある。高校卒業一斉試験は高校卒業試験として、その成績が高校卒業証明書の取得のみに利用され、大学入学者選抜とは関係がないものであった。一方、現在の高校学業水準試験は生徒の学力の到達度を測定する試験として、その成績が高校卒業だけでなく、大学が新生を募集する際にも利用される。

高校学業水準試験は、省レベルの教育行政部門が実施する。試験科目は「普通高級中学課程案（実験）」で設置された全科目が対象となる。そのうち、国語、数学、外国語、思想政治、歴史、地理、物理、化学、生物などの試験は、省レベルの教育行政部門が省内で一斉に実施する。芸術（または音楽、美術）、体育と健康、通用技術、情報技術の試験については、省レベルの教育行政部門は実施要項を制定し具体的な実施方式を確定する（その実施は市・県教育行政部門または各学校が取り扱う）。普通高級中学の全ての生徒は学業水準試験を受けなければならないとされている（教育部 2014b）。

例えば、上海市では、2009年から普通高級中学学業水準試験制度が試行され、2013年9月にその実施について調整が行われた。調整後の実施方法は、次のようである。1年次には地理と情報科技が、2年次には歴史、物理、化学、生命科学が、3年次の第一学期末には国語、数学、外国語、思想政治が、それぞれ課される。筆記試験科目の成績はA、B、C、D、Fという5つの等級に分けられ、F等級は不合格である。また、筆記試験科目以外、つまり、情報科技（計算機操作）や物理、化学、生命科学の技能操作試験の成績は、合格と不合格の2種類に分けられる。この方法は、2013年度から実施されている（上海市教育委員会 2013）。

2.2 生徒総合素質評価

生徒総合素質評価は、高級中学が生徒の全面的に発展する状況を観察し、記録し、分析するものである。生徒の個性を発見して養成し、素質教育を推進することを目的としている。評価は、① 思想品德、② 学業水準、③ 身心健康、④ 芸術素養、⑤ 社会实践という5つの側面にわたって行われる。生徒の個性・長所を伸ばし、生徒の社会的な責任感や創造精神や実践能力を重視すべきとされている（教育部 2014d）。

評価の方法は各地方が一般的な方法を定め、それによって各学校が実施する。例えば、上海市は2015年4月に「上海市普通高級中学生徒総合素質評価実施弁法」を公布している。これによれば、評価対象となる項目とそ

の具体的な内容は表の通りである。評価にあたっては、主に事実に基づき、生徒の主要な経歴や典型的事例を客観的に記録することが重視される（上海市教育委員会 2015）。

表 1 生徒総合素質評価における評価項目と主な内容（上海市）

評価項目	主な内容
① 品德発展と公民素養	日常行為規範の遵守、ボランティア活動や党団活動等への参加状況
② 課程履修と学業成績	学業水準試験の成績、基礎型課程の成績、拓展型課程と研究型課程の学習経歴など
③ 身心健康と芸術素養	体質健康測定の結果、スポーツ運動と芸術活動に参加する経歴及びその表現水準など
④ 創造精神と実践能力	研究学習や社会調査、科学技術活動、創造発明等への参加状況

2.3 高校学業水準試験と生徒総合素質評価の併用

高校学業水準試験は、高級中学の教育が一部の科目に偏重することを防ぐための措置と見られている。生徒総合素質評価は、試験成績が生徒評価の唯一の基準とされる事態を改めるための措置と見られている。

現在、この2つの方策は大学入学者選抜で利用され始めている。2014年以前は高級中学新教育課程を試験的に実施する省のみで、各大学は現役卒業生の総合素質評価に関する情報を各高級中学から提供してもらっていた。2015年以降は、高校学業水準試験の成績や生徒総合素質評価の情報は受験生の電子ファイルに含まれ、すべての大学が入学者選抜にあたってなんらかの形で活用する。

大学入学者選抜は、徳・知・体・美を総合的に評価し、その内容の優秀な者を選抜することが基本原則とされている。同原則に基づき、思想政治品德の審査及び身体健康状態の検査に合格し、全国统一入試の成績が合格最低ラインに達している受験生の中から、合格者を各大学が決定する（全国统一入試の成績が入学許可の要件として最重要視されている）。思想政治品德の審査については、受験者の在学する高級中学や所属組織は、主に生徒の政治態度や思想品德を全面的に認定するとされ、憲法が規定する基本原則に反対する言動を行ったり邪教組織に参加したり、治安管理で処罰を受けたりしている場合、不合格になるとされている（教育部 2014a、南部

2016: 36)。身体健康状態の検査については、全ての受験生が検査を受けなければならないとされ、指定された二級甲等以上の病院などによって検査が実施される。病院は教育部・衛生部・中国障害者連合会による「普通高等教育機関学生募集身体検査に関する指導意見」などの要求に従って、受験生の身体検査の結果を出す（教育部 2014a）。

浙江省では、2011年から浙江工業大学と杭州師範大学の試行を始めとして、「三位一体」案を推進している。この「三位一体」案とは、新入生募集・受け入れに当たって、① 受験生の学業水準試験の成績、② 大学が行う総合テストの成績、③ 全国統一入試の成績の3つをそれぞれ一定の比例で総合成績として算出し、総合成績によって優秀な者を受け入れる方法である。同年、浙江工業大学は、この方法で10専攻の新入生を100名募集し、杭州師範大学も同じ方法で3専攻の新入生を160名募集した。この2大学の総合成績の計算方法は、学業水準試験の成績（満点100点に換算）×20%＋大学の総合テストの成績（満点100点に換算）×30%＋全国統一入試の成績（満点100点に換算）×50%＝総合成績、というものである。学業水準試験と総合素質評価への要求について、例えば、杭州師範大学の小学校教育専攻と就学前教育専攻の場合、学業水準試験の成績は4A（Aは4科目）と2B（Bは2科目）以上であり、総合素質評価の項目はP等（合格）以上である（「浙江：会考成績折入高招総分」2011）。2016年現在、浙江省の46の高等教育機関は「三位一体」方式で新入生を募集している。同年、北京大学、清華大学、復旦大学、上海交通大学、浙江大学、中国科学技術大学、中国科学院大学、香港中文大学（深圳）という8校の難関大学でも、浙江省の「三位一体」方式を入学者選抜に採用している。

3. 大学入学者選抜における改革

3.1 全国統一入試における試験科目の削減

全国統一入試は、ほとんどの大学が採用する選抜方法である。この試験は1952年から導入され、文革期に一時廃止されたものの、文革終結後に復活した。その後様々な改革を経て今日に至っている。

現在、全国統一入試の試験科目については「3+X方式」が採用されている。「3+X方式」の3は国語、数学、外国語の各教科であり、全受験生に必修の科目である。「X」は物理、化学、生物、政治、歴史、地理の6科目及び総合科目（「文科総合」、「理科総合」、「文理総合」など）である。各

高等教育機関は、「X」の科目の中から1科目以上を選び入試科目とする（教育部 1999）。「3+X方式」による入試は、最初に1999年から広東省で初めて実施された。翌2000年に江蘇省、浙江省、山西省、吉林省の4省で、2001年には18の省・自治区・直轄市で、それぞれ実施された。これらの試行を踏まえ、2002年から中国のすべての省・自治区・直轄市で「3+X」方式による入試が導入された。

3.2 推薦入学制度

3.2.1 推薦入学制度の概要

推薦入学制度は、中国語で「保送生」制度と呼ばれ、高級中学が自校の生徒の学力と資質を保証して大学に推薦するものである（大塚 2006）。この制度の重要な特徴は、全国統一入試の不十分さを克服することを目的としており、高級中学の推薦する生徒に対して全国統一入試を免除して入学させることである。

推薦入学制度は文革前にも実施されていたが、文革期には学力試験が廃止され推薦入学制度が全面的に実施された。文革終結後、全国統一入試の復活と同時に推薦入学制度も1978年から一部の大学で再開された（南部 2006）。1984年には北京師範大学や山東鉅業学院など10校余りの大学・学院が推薦入学制度を試行し、6,000名がこれにより入学した。1985年に教育部が「1985年普通高等教育機関が推薦学生の募集・受け入れを試験的におこなうことに関する意見」を公布し、1988年に国家教育委員会が「普通高等教育機関が推薦学生を募集し受け入れることに関する暫定規定」を公布した。これらにより、推薦入学制度が正式に実施された。

1990年代に入ると、推薦入学制度を実施する大学およびこれによる入学者が増加した。同入学者は1992年に約14,000名、1993年に16,000名余、2000年に25,000名に達した（葉鉄橋 2012）。

推薦入学の対象となる学生に求められる条件は、2014年現在、教育部大学学生司によって以下のように規定されている。①高級中学段階で省レベルの優秀学生と認められた現役の高級中学卒業生、②後期中等教育段階の科学オリンピック全国大会に出場し1等賞を獲得するか、国際オリンピック（数学、物理、化学、生物学、情報学を含む）のための集中訓練に参加した現役の高級中学卒業生、③推薦資格を認められた外国語中学で学び、思想品德と学習成績が優れた現役の高級中学卒業生、④公安英烈子女（即ち、公安機関において「革命烈士」または「英雄模範」称号と授与される

者の子ども)、⑤ 全国大会で 3 位以上、アジア大会で 6 位以上、世界大会で 8 位以上を獲得したことがあるスポーツ選手、である（教育部高校学生司 2014、南部 2016: 38）。

推薦入学制度の実施を認められる大学は、当初は、少数の重点大学のみであった。現在は、重点大学だけでなく、省管轄の一般的な学院にも認められている。その許可権は、教育部管轄の大学の場合は教育部にあるが、省管轄の高等教育機関の場合は省・自治区教育厅または直轄市の教育委員会にある。

推薦資格を有する高級中学・中等師範学校は一般的に、教育方針を全面的に貫徹し、運営思想がよく、教育の質が比較的高い学校に限定されている。このような学校は、関連大学の指定により、省・自治区・直轄市の審査を経て、推薦資格を得ている。このほか、教育部によって許可された外国語中学も推薦資格を有する。

これらの学校による推薦の方法は大体次のようである。まず受験生は在籍する学校または関連部門で推薦申請を提出する。この場合、一般的に推薦申請書が求められる。例えば、中央財經大学への推薦入学は、書類申請の時、「個人申請書」を記入しなければならない。個人申請書は、本人が手書きで記入し、以下の内容を含んでいる。① 自身の成長履歴、② 個性・長所及び取得した成果、③ 父母・家族及び所在高級中学に対する認識、④ 自分の未来への希望、などを含むとされる（中央財經大学官網 2016）。次に、クラス担任の評価、さらに校長による推薦である。中央財經大学の場合、「高級中学推薦書（推薦学生）」の書式に「高級中学段階の学習成績」欄に続いて「クラス担任評語」欄が設けられている。「高級中学意見」欄には、「推薦に同意する」という文言の下に「校長署名、学校印鑑、年月日」が明記されている。

2015 年、この推薦入学制度を採用した大学は 91 校あり、同方法で入学した学生は 2,811 名いた。2000 年の 25,000 名に比べて、この人数はずいぶん減少した。これは 2001 年以降において募集定員の減少（5,000 名以内）と推薦条件の厳格化によると考えられる。

3.2.2 推薦入学制度における学科試験

推薦入学制度は、高級中学が優秀と判断し推薦した生徒に適用される。しかし、この制度をめぐって様々な問題点や不正事件が発生した。その一つは、一部の高級中学はできるだけ進学率を高めるために、「最も成績の良

い生徒は推薦せずに手許に残して統一入試を受けさせ、二流、三流の生徒を推薦」ということである（大塚 2006）。また、不正事件について、例を挙げれば、1995年、河南省鶴壁市にある1つの高級中学による8名の推薦学生候補者のうち、7名の成績には虚偽があった。2000年、湖南省のある重点高校による14名の推薦学生候補者のうち、13名は同学校の校長や副校長や所在する県の幹部の子女であった（李木洲・劉海峰 2011）。

不正事件の発生を防ぐとともに、推薦入学による学生の質を保証するため、1998年、教育部は上海市、湖北省、河北省、黒竜江省、四川省で推薦入学候補者を対象とする総合能力試験を試行した。1999年に、この総合能力試験は全ての高等教育機関の推薦入学候補者に課された（2001年に廃止）。同時に、多くの高等教育機関は、真に優秀な学生を受け入れ得るために、教育部による総合能力試験のほかに独自に審査を行っていた。

2006年以降、教育部の規定により、大学は推薦入学候補者に学科試験及びその他の審査を実施するようになった。推薦入学候補者に対する試験や審査について、各関係高等教育機関の組織する学科試験及び関連審査は当該機関の人材選抜基準と養成目標を候補者の推薦資格条件に結び付けると、教育部は規定している。このように、推薦入学では、各大学による学科試験と関連審査が続けられている。

清華大学では、2015年、同大学言語類の推薦入学では、第一次審査（1月1～5日）の合格者に対して、第二次審査（1月6日から）として、筆記試験や総合面接や総合評価を含む選抜試験を行っている（清華大学招生弁公室 2015）。

3.3 自主学生募集制度

3.3.1 自主学生募集制度の概要

中国の大学入学者選抜制度の中で、2000年代に新たに持ち上げられた枠組みとして、一部の高等教育機関が取り込んだ「自主学生募集」がある。この制度は、自主募集を認められた大学が独自に選抜を行う方法である。主な内容は以下の通りである。① 大学は、出願条件や選抜方法、合格者決定手順などを明記した自主的選抜・受け入れ要領を制定すること、② 大学は、専門家グループを組織し、推薦された受験生の資料について審査を行い、学力試験や面接試験などを行い、合格候補者を決めること、③ 大学は、全国統一入学試験を受け、成績が一定の水準に達した者の中から、独自に選抜し受け入れを行うこと、である。

全国統一入学試験による入学者選抜は統一試験の優秀者を選抜するものであり、大学の選抜が多少とも限定される。これに対して、自主学生募集は大学が独自の判断で入学者を選抜できるという点で、各大学には魅力を有する。

中国では、1990年代に上海及びその周辺地区が「自主学生募集」の試行を行った。2001年には江蘇省の東南大学、南京航空航天大学、南京理工大学の3校が「自主学生募集」を試験的に導入し、翌年同じ江蘇省の南京大学、河海大学、中国薬科大学の3校もこれに続いた。これらが「自主学生募集」の先導的な試みと見られている（大塚 2006）。

江蘇省の6大学の試行を踏まえ、2003年、教育部は北京大学、清華大学、中国人民大学など同部直轄の22校の重点大学を選び、それぞれ募集定員の5%を割り当て、「自主学生募集」の試行を正式に導入するようになった。それ以降、自主学生募集制度を実施する大学数が年々増え、2016年その数は90校ある。そのうち、全国で「自主学生募集」を行う大学は77校であり、所在の省・自治区・直轄市のみで「自主学生募集」を行う大学は13校である。この方式で受け入れられた新生数も急増しており、2003年はただ1776名を募集したが、2012年は2.45万名を募集している（苟人民等 2005、『中国教育年鑑』編輯部 2014: 262）。10年間（2003～2012年）で、「自主学生募集」によって受け入れられた入学者は10.7万人に達している（張亜群 2014）。

3.3.2 自主学生募集制度における学科試験と面接試験

「自主学生募集制度」は、全国統一入試の結果との関係で以下の3タイプに分かれる。すなわち、全国統一入試の結果を前提に実施するもの、ある程度前提としたもの、前提としないものである。例外はあるものの、難関大学は一般に第1の方式を採用している。復旦大学と上海交通大学（2006年から開始）は、第2の方式を採用している。一方、2005年から自主的な学生募集権が認められた一部の省所管する高等職業技術学院は、第3の方式を採り入れられている。

上海交通大学の学生募集・受け入れ方針は、受験生の高校学業水準試験、高級中学段階の成績、課外学習、受賞、総合素質評価、同大学の実施する学科能力試験、面接試験に基づき、受験生を審査し、自主的に優秀な現役の高級中学卒業生を募集する。選抜のプロセスは、まずは第一次審査である。この段階で、受験生の提出した書類に基づいて初歩的審査を行い、そ

の合格者が同大学の学科能力試験を受ける。学科能力試験の段階では、文系の受験生は数学・論理＋読解・表現を課され、理系の受験生は数学・論理＋物理探究を課される。受験生の学科能力試験の成績、所属の高級中学の推薦書、高級中学段階の全体表現、総合的な素質などに基づいて、大学は面接試験の候補者を選ぶ。面接試験段階では、受験生の総合素質、学科での長所、学習・認知能力、抱負、社会責任感などについて考察を行う。同大学は主に、受験生の面接試験の成績に基づいて合格者を決定する（上海交通大学招生弁公室 2013）。

4. 高級中学における改革

4.1 高級中学における受験教育から素質教育への転換

「受験教育」は大学入学者選抜の弊害の一面を表している。受験教育は1970年代末頃か1980年代初頭に現れた。大塚（1981）は、当時大学進学競争の過熱化の中で、高級中学が進学率向上を図る方策について、以下のように指摘した。

- ① 卒業年次には知育に熱心になる一方、徳育や体育は軽視される。学級会の時間は補習や自習に変わり、課外活動も停止状態に陥る。
- ② 復習の時間をより多く確保するため、教材内容を圧縮し、授業の進度を速めてつめ込みを行う。生徒が内容を消化する時間を与えず、基本訓練を軽視する。
- ③ 生徒の疲労などを考慮せず、負担を増し、休日も夜も過密な計画を組む。
- ④ 大学入試に的をしぼり、入試科目以外の授業をしない。
- ⑤ 入試に出そうな問題のみを教える。平素のテストの出題量を増す。難易度の高い問題を出題する。頻繁にテストを行う。
- ⑥ 他校の優秀な生徒を途中から転入させたり、前年度合格点に近い点をとった生徒を「焼き直し」するように、正式の学年に編入して、大学合格率計算上の「分子」を大きくする。
- ⑦ 成績の悪い生徒の大学受験を控えさせ、合格率計算上の「分母」を小さくする。
- ⑧ 不当に落第を多くし、卒業年次の生徒を一学年押し戻す（入試準備のため、もう一年勉強させる）。

すでに述べたように、中国政府は、1990年代前半から受験競争激化による弊害を克服するため、「素質教育」を提唱した。1993年2月13日公布の「中国教育改革・発展要綱」は、労働者の「素質」を一層高め多くの人材を養成することを教育の任務とした。また小・中・高校教育が受験教育から脱出し、国民の「素質」を全面的に高める道を辿っていくことを提唱した。これは素質教育に関する最初の提起と考えられる。

当時、児童・生徒の「素質」を全面的に高めることが強調されたが、その「素質」とは、児童・生徒の思想道徳素質や文化科学素質、労働技能素質、身体心理素質を指す。素質教育は児童・生徒のこれらの素質を育む教育と言える。1990年代末には、中共中央・国務院が「教育改革を深化させ全面的に素質教育を推進することに関する決定」（1999年）によって、生徒の創造的精神と実践的能力を養成することが、素質教育の重点であるとした。特に2001年から始められた初等中等教育課程改革は、素質教育の徹底的な実施を促進することを企図するものであった。普通高級中学教育課程は2003年に公布され、2004年から各省・自治区・直轄市で次第に試行されてきている。新教育課程の実施の下で、生徒の能力と素質への考査は重視されるようになった。

また、2000年代において、普通高級中学の生徒に対する学業水準試験と総合素質評価を含む総合評価制度を確立したのも、素質教育の一層の発展を促進する施策と考えられる。高校学業水準試験と生徒総合素質評価の実施につれて、2008年、教育部は、生徒の総合評価制度を確立し、次第にそれを高等教育機関の新入生選抜体系に導入するようと呼びかけている。2010年7月に公布された「国家中長期教育改革・発展計画要綱（2010～2020年）」は、「普通高等教育機関の本科の学生募集は、統一入学試験を基本方式とし、学業水準試験と総合素質評価を結び付け、優秀な者を選んで受け入れる」と述べている（教育部2010）。現在、浙江省や江蘇省など一部の省は大学入学者選抜の中で、試験的に高校学業水準試験と生徒総合素質評価を生かしている。

4.2 重点高校・モデル高校政策

中国では、早くも1953年から重点学校政策が施行され始めたが、文革以前の重点学校はエリート養成を中心としていた。文革以降、重点学校政策が再び回復され、重点高校を含む重点学校づくりが大きく発展してきた。1977年5月、鄧小平は、重点小学校、重点中等学校、重点大学を設置しよ

うと呼びかけていた。これを受けて、1978年1月、教育部は国務院の認可を受けた上で、「一組の重点小・中・高校を立派に運営することに関する試行案」を公布した。この中で、重点的な小学校や中等学校を設置することによって、初等中等教育学校の質を高め、初等中等教育改革の発展を推し進めることを求めた。また、1980年10月公布の「段階的にグループに分けて重点中等学校を立派に運営することに関する決定」の中で、教育部は重点中等学校を設置し運営する重要性和戦略的意義を述べた。これにより、重点中等学校の建設が行われるようになった。1981年末には、重点中等学校は4,016校あり、全中等学校中の3.8%を占めるに至った（程凱 1998）。

1990年代になると、重点高校という名称は「モデル高校」に変わり、その建設が盛んに行われていた。1993年2月13日に中共中央・国務院が「中国教育改革・発展要綱」を公布した後、1994年7月3日、国務院が「『中国教育改革・発展要綱』に関する国務院の実施意見」を公布した。国務院の「実施意見」によれば、全ての県は重点的に1~2校の中等学校を設置し運営すること、実験的・模範的高級中学を全国で1000校ぐらい建設することとされている（国務院 1994）。これはモデル高校（即ち模範的高級中学）政策に基づくものである。国務院の意見に基づき、1995年7月、当時の国家教育委員会は「模範性普通高級中学評価・認定基準（試行）」を制定し、2000年までに1000校ぐらいのモデル高校を評価し認定すると決めた。しかし、このモデル高校政策に関する批判が提出され、1996年にその評価・認定は国家教育委員会によって止められた。それにもかかわらず、各省・自治区・直轄市ではモデル高校の建設活動は盛んに行われ、省レベルのモデル高校が評価し、認定されている。

4.3 重点高校の生徒の大学受験・進学への支援

上述したように、1978年以来30年間に多少の変化はあったものの、重点学校は進学校として、大学入学進学率の高さ、特に重点大学への進学率の高さの点で変化はなかった。

重点高校の大学入試・進学の実績について、梁晨・李中清らは、北京大学と蘇州大学を例とし、2大学の1952年から2002年までの学生のデータを分析した。その結果、「少数の高級中学は2大学に大多数の学生を送り出した」「比較的多くの学生を送り出した高級中学には、圧倒的多数は教育行政部門が審査、認定した重点高級中学である」「重点高級中学が中国のエリート大学に学生を送り出す主要拠点とは疑いがない」「重点高級中学は（生

徒が) エリート大学に通う重要な経路である」という結論を出している(梁晨・李中清等 2012)。

現在、重点高校の生徒の大学受験・進学への支援をめぐって、「県一中現象」と呼ばれる現象がみられる。これらの第一中学はほとんど当地の重点高校であり、その共通点として、進学率を高めるため、集中的に教え込み・訓練・テストを通じて、徹底した入試準備をすることである(劉海峰 2011b)。このような指導はしばしば「強化訓練」と言われる。例えば、江蘇省南通市の「県一中」は、生徒の大学入試の成績を高めるために、生徒が午前6時に起きて(全寮制)朝の読書をし、一日中8コマの授業を受け、午後6時から10時まで自習をすることを求めている。休日は一か月に一日のみである(梁晨・李中清等 2012)。

「県一中現象」以上に注目されているのは、「試験工場」または「超級中学」と呼ばれる現象である。「試験工場」と「超級中学」の間でニュアンスが少し異なるが、両者は規模が大きく、進学率が高い点で一致している。

「試験工場」と呼ばれる学校の教育管理の特徴として、次の4点が指摘されている。① 厳格な閉鎖的・軍隊的管理が実施されること、② 生徒を学習機器や試験機器と見なし、節句や休日も授業や補習に利用すること、③ 大学入学試験の科目について厳しい訓練を行う一方、他の科目を軽視すること、④ 高得点を得ることが重視され、生徒の個性を尊重した教育を行い難いこと、である(張濟洲 2015)。「超級中学」には様々な種類があるが、その共通点は第1に教員と生徒数が多いこと(生徒数が1万人以上にも達する学校もある)、第2に進学率が高く、一流大学進学者の比率が長年にわたり高いことである(郭文婧 2013)。

このような「試験工場」または「超級中学」の中では、安徽省六安市の毛坦場中学と河北省衡水市の衡水第一中学が多くのメディアに報道され、有名になった。この2校の教育方式について、多くの方はそれが受験教育だと批判しているが、大学入試研究で有名な劉海峰は、衡水中学の教育方式にも「積極的な要素がある」と述べている。例えば、教員の授業方法が適当であること、生徒が真面目に勉強し、その受験の方法が適当であること、などである。劉海峰はまた、毛坦場中学の生徒やその親の多くが社会的に恵まれない境遇にあり、彼らに同情、理解すべきだと指摘している(光明網 2014)。

5. 高等教育機関の改革

5.1 優秀学生養成プログラムの概要

高大接続の視点で高等教育機関の入学後の学生への支援について、ここでは、大学入学者選抜、特に一部の研究大学による自主学生募集と関連して、創造的人材を養成するための優秀学生養成プログラムを検討したい。

優秀学生養成プログラムは、1999年から教育部の「高レベルの創造的人材プロジェクト」に従って、一部の研究大学が実施した「優秀学生教育改革試験班」の取り組みと、2010年から一部の研究大学が教育部の指導・支援の基で実施した「基礎学科英才学生養成試験計画」を指す。後者は前者の後継と考えられる。

1999年1月、教育部が「21世紀に向けた教育振興行動計画」を公布し、高レベルの創造的人材プロジェクトを提出したことを契機に、一部の研究大学は、レベルが高く創造的能力を有する人材を養成することを目指し、創造的人材を養成する教育モデルを模索するために、相次いで「優秀学生教育改革試験班」を設立し、優秀な学生を重点的に教育するようになった。2000年5月に設立された浙江大学竺可桢学院、2001年秋に設立された北京大学「元培計画実験班」などは、その試験班の先駆と言える。これらの創造的人材養成プログラムでは、当該大学の自主学生募集と直接に関係するものとは関係しないものがある。当該大学の自主学生募集に直接繋がっているプログラムには、主に、浙江大学の竺可桢学院、南開大学の「伯苓班」と「省身班」、上海交通大学の「致遠学院」などがある。

2009年9月、教育部は「基礎学科英才学生養成試験計画」を示し、2010年9月から実施している。基礎学科英才学生養成試験計画とは、レベルが高い研究大学や科学研究機関の基礎学科で幾つかの青年英才養成拠点を作り、一定の数の英才大学生を選んで専門的に養成するプログラムである。現在、北京大学、清華大学など20の高等教育機関は、基礎学科英才学生養成試験計画を実施しており、関連学科は数学、物理学、化学、生物学、計算機科学などを含めている。教育部に認められた試験拠点には、元培学院（北京大学）、清華学堂（清華大学）、致遠学院（上海交通大学）のような専門学院もあれば、伯苓班（南開大学）、唐敖慶班（吉林大学）のような試験班もある。また、クラスを作らず、一般的なクラスで英才学生に専門的な指導を与える方式もある。2014年まで試験的に行われる高等教育機関では、4500名の優秀な学生がこのプログラムに選ばれ、500名の卒業生が

送り出されている（杜玉波 2014）。

基礎学科英才学生養成試験計画を実施する高等教育機関では、「試験区」（元培学院、伯苓班など）が設立され、優秀学生の養成を試験的に行う。優秀な学生を選抜するために、試験区は自主的・多元的な学生募集・受け入れを行っている。学生募集・受け入れに当たって、学生の総合的な能力、学問的趣味、潜在的な発達の可能性を審査することが重視される。試験区の学生は、現役の高校卒業生や大学初年次の新入生、大学二年次以上の学生から選ばれている。選抜方法は、教授または学生本人の推薦の上、筆記試験や面接試験や総合試験などが採り入れられている。具体的な方法は、大学によって異なっている。例えば、上海交通大学の致遠学院は、全ての新生が受験を許され、筆記試験と面接試験を通じて合格者を選抜する。また、西安交通大学の試験班は、本学の少年クラスと推薦入学と自主学生募集によって受け入れられた学生、全国统一入学試験によって募集された優秀学生から、試験班の学生を選抜する（包水梅 2013）。

5.2 「基礎学科英才学生養成試験計画」の実施及び学生の学修への支援

基礎学科英才学生養成試験計画の実施について、2011年10月9日に公布された「実施弁法」では、①試験区を設立し、②教授や専門家が試験区の運営管理を実施し、③一流教員を備え、④優秀な学生を選抜し、⑤新しい教育方式を採り入れ、⑥学問的雰囲気を作り、⑦教学管理を改革し、⑧条件保障を強化し、⑨国際協力を進める、という9つの措置が求められている（中共中央組織部弁公庁 2011）。この試験計画の具体的実施について、ここでは、清華大学の清華学堂を例として、「清華学堂人材養成計画」の具体的な方法を述べたい（清華大学 2014）。

清華大学は、1990年代末頃から創造的人材を養成する実践を試み、相次いで数理基礎科学班（1998年）、化学・生物基礎科学班（2003年）、ソフトウェア科学実験班（2006年）、銭学森力学班（2009年）を設立し、これらを基礎に、2009年に「清華学堂人材養成計画」（以下は「清華学堂計画」）を出している。2010年、「清華学堂計画」は、国の基礎学科英才学生養成試験計画のプログラムの一つに認められた。2016年現在、清華学堂には数学班、物理班、化学班、生命科学班、計算機科学実験班、銭学森力学班が設けられており、421名の学生が在籍している。

具体的な入学者選抜方法は、自主学生募集、全国统一入学試験による募集、入学後の二回目の選抜、学部変更などが採り入れられている。計算機

科学実験班の首席教授の姚期智、銭学森力学班の首席教授の鄭泉水、生命科学班の首席教授の施一公らは、実験班の学生を選抜する場合、生徒または学生の強い責任感や親孝行、楽観的な天性、成功を追求する性格、趣味、潜在的な発達の可能性、個性を非常に重視すると言っている。そのため選抜に当たって、面接が特に重視されている（高教司 2014）。

「清華学堂計画」の狙いは、計画に支援される学生が関係基礎学科分野のリーダーと国際の一流科学者の一人になるようにすること、そして国のために、学問的思想で活躍し、国際的視野が広く、発達する潜在的能力が大きく、基礎学科分野で未来の学問リーダーを養成することである。その基礎学科分野は数学や物理学、化学、生命科学、計算機科学、力学とされている。同計画に入った優秀学生はリーダーとして、全体の学生を引いて向上に努力することである。その目的は、同計画の実施を通じて、全学で人材養成の質を高めることである。清華大学は、同計画の実施について、学生の選考、教員グループ、教育計画、雰囲気づくり、国際協力という 5 つの面を改革の重点とし、指導組織、全面的な政策の支持、専用の経費、良好な設備・条件、関連理論と実践の研究からなる保証措置を講じている。清華大学は、同計画の実施により効果を得られたと言っている。

各大学が実施する基礎学科英才学生養成試験計画は、人材養成モデルの上で、指導教官制、少人数授業、国際交流、個性化という共通点を持っている。「清華学堂計画」には、本格的な英才によって未来の英才を養成するという特徴がある。つまり、清華大学は、丘成桐（数学）、朱邦芬（物理）、張希（化学）、施一公（生命科学）、姚期智（計算機科学）、鄭泉水（力学）などの各氏を招いて、各実験班の首席教授を担当してもらう。学生は、これら有名な科学者に引率されて、優れた学問的素養を積み重ねるのである。

6. おわりに

過去 30 年間、中国政府は大学入学者選抜方法について、様々な改革を行ってきた。その結果、全国統一入学試験を主とし、推薦入学と自主学生募集などを補助とする入学者選抜方法が整備された。

高大接続の視点から中国の大学入学者選抜制度を俯瞰すると、学力優秀な学生の選抜とともに、急増する大学受験者への対応という矛盾をいかに調整するかに重大な関心が払われ、その対策が講じられてきたといえる。

とくに急増する大学受験者への対応という側面からの改革が顕著であ

る。中国の高等教育は2002年から大衆化（マス型）段階に入っている。大学の収容力に比べて大学志願者が大幅に上回る「需要過剰」ともいえる状態にある。そのため入学者選抜は必要不可欠である。とくに、公平性や公正性の観点から、比較的明確な基準で入学者を選抜する方法は重要である。その意味で、学力試験（筆記試験）を中心とする全国統一大学入試が多くの大学で多用されていることは当然といえる。

ただし、このような選抜方法による弊害も顕著になっている。特定科目に偏った受験教育が拡大したり、受験競争の激化を招いたりしている。これにより、中等教育以下の教育が受験準備に巻き込まれ、本来の目的・目標の達成に支障を来している。

これを是正するための改革は、大学入学前と入学後で行われている。入学前のそれは高級中学における学業水準試験や生徒総合素質評価である。特定科目に偏った受験準備教育や学習を防ぐとともに、均衡のとれた能力・資質等を形成することが追求をめざすための施策である。入学後のそれは推薦入学や自主学生募集である。これにより、学力のみによる選抜から高級中学での学習状況や能力・資質等をも考慮した選抜をめざしている。

一方、学力優秀な学生の選抜については複雑な状況にある。上記の入学者選抜方法の改革は学力優秀な学生にも適用されるとはいえ、従来型の対応が依然として優勢である。難関大学入学をめぐる学校間や生徒間の競争があり、難関大学側にも優秀学生の確保をめぐる競争がある。これらが学力優秀な学生の選抜をめぐる改革を困難にしている側面は否定できない。

学力優秀な学生の選抜と急増する大学受験者への対応という矛盾は、高等教育が大衆化・ユニバーサル化にある各国に共通するものである。中国も例外ではなく、この矛盾をいかに調整するかという課題に直面していることを示している。

参考文献

[日本語文献]

石井光夫、2014、「中国の大学入試改革と学力保証」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』9: 1-15。

王允慶・李越、2013、「第五章入試・評価制度」独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター編集『中国の初等中等教育の発展と変革』、91-120。

大塚豊、1979、「中国における大学生募集制度に関する一考察－1952～65年度

- の募集規定の分析を中心として－」『日本比較教育学会紀要』5: 92-8。
- 大塚豊、1980、「文革期中国の大学入学者選抜に関する一考察－教育と労働の結合の観点から－」『大学論集』8: 109-28。
- 大塚豊、1981、「文革後中国の高等教育機関をめぐる政策」『大学論集』10: 147-70。
- 大塚豊、1989、「中国における統一大学入試制度の導入過程：1949～51」『日本の教育史学：教育史学会紀要』32: 105-23。
- 大塚豊、2006、「市場経済移行期の中国における大学入学者選抜」『教育科学』26: 5-62。
- 大塚豊、2007、『中国大学入試研究－変貌する国家の人材選抜』東信堂。
- 宮玉婷、2012、「中国における大学入学試験制度改革の現状と課題－『自主学生募集』に焦点をあてて」『教育制度研究紀要』7: 75-80。
- 金愛花、2006、「日韓中3カ国における大学入試制度の変遷」『東京大学大学院教育学研究科紀要』46: 165-73。
- 楠山研、2005、「中国における大学入試改革の動向－地方・大学への権限委譲に関する一考察」『京都大学大学院教育学研究科紀要』51: 128-41。
- 謝妍笑、2016、「第5章 大学入試改革」黄福涛・李敏編『中国における高等教育の変貌と動向－2005年以降の動きを中心に－』高等教育研究叢書 132: 45-52、広島大学高等教育研究開発センター。
- 程凱、1998、「中国の重点学校教育政策についての検討」『人文学報 教育学』33: 65-82。
- 南部広孝、2005、「第8章 新入生募集制度改革」黄福涛編『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題』高等教育研究叢書 81、広島大学高等教育研究開発センター。
- 南部広孝、2006、「中国の大学入学者選抜における推薦入学制度の変遷」『大学論集』37: 167-82。
- 南部広孝、2016、『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較－中国・台湾・韓国・日本－』東信堂。
- 南部広孝・渡辺雅幸、2012、「インドと中国における大学入学者選抜制度－現状と改革動向の比較的分析」『京都大学大学院教育学研究科紀要』58: 19-43。
- 劉海峰、2011、「中国大学入試制度と基礎教育の関係について」科学技術振興機構中国総合研究センター編『中国の基礎教育の現状及び戦略』、39-44。

[中国語文献]

- 包水梅、2013、「我国『基礎学科拔尖学生培養試験計画』実施状況」『現代教育管理』8: 55-60。
- 杜玉波、2014、「杜玉波同志在創新高校人材培養座談會上的講話」。
(http://www.moe.gov.cn/s78/A08/gjs_left/moe_742/s5631/s7969/201404/t20140404_166806.html, 2016.8.21)

- 高教司、2014、「清華學堂計畫首席教授揭秘選材標準」。
(http://www.moe.edu.cn/s78/A08/gjs_left/moe_742/s5631/s7972/201404/t20140408_166870.html, 2016.9.5)
- 苟人民等、2005、「高校學生工作」『中國教育年鑑 2004』。
(http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_364/moe_902/moe_937/tnull_10029.html, 2016.7.28)
- 光明網、2014、「劉海峰：『高考工場』中的考生家長多為弱勢群體」。
(http://edu.gmw.cn/2014-12/29/content_14330371.htm, 2016.6.5)
- 國家教育委員會、1990、「國家教委關於在普通高中實行畢業會考制度的意見」。
(<http://fagui.eol.cn/html/201008/3921.shtml>, 2016.7.25)
- 國務院、1994、「國務院關於『中國教育改革和發展綱要』的實施意見」（國發 39 號）。
(http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2483.html, 2016.9.3)
- 郭文婧、2013、「『超級中學』需要調控但不必急於定論」『生活教育』12: 31-2。
- 胡金平、2011、「三十餘年來高考政策研究的社会學審視」『教育學報』4: 19-26。
- 教育部、1999、「教育部關於進一步深化普通高等學校招生考試制度改革的意見」（教學 3 號）。
(<http://www.chinabaik.com/law/zy/bw/gw/jtb/1339824.html>, 2016.6.8)
- 教育部、2003、「教育部辦公廳關於做好高等學校自主選拔錄取改革試點工作的通知」（教學 2 號）。
(http://www.moe.gov.cn/srcsite/A15/moe_776/s3110/200302/t20030227_89058.html, 2016.8.11)
- 教育部、2008、「教育部關於普通高中新課程省份深化高校招生考試改革的指導意見」（教學 4 號）
(http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1997/201001/79887.html, 2016.6.9)
- 教育部、2010、「國家中長期教育改革和發展規劃綱要（2010～2020 年）」。
(http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm, 2016.5.14)
- 教育部、2014、「2014 年普通高等學校招生工作規定」。
(http://www.moe.gov.cn/srcsite/A15/moe_776/s3258/201506/t20150619_190780.html, 2016.6.19)
- 教育部、2014、「教育部關於進一步完善和規範高校自主招生試點工作的意見」（教學 18 號）。
(<http://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zszcgd/zdgg/201603/20160302/1523885364.html>, 2016.5.18)
- 教育部、2014、「教育部關於普通高中學業水平考試的實施意見」（教基二 10 號）。
(<http://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zszcgd/zdgg/201603/20160302/1523885>

- 357.html, 2016.5.18)
- 教育部、2014、「教育部關於加強和改進普通高中學生綜合素質評價的意見」（教基二 11 号）。
- (<http://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zszcgd/zdgg/201603/20160302/1523885350.html>, 2016.5.18)
- 教育部高校學生司、2014、「關於做好 2014 年普通高等學校招收保送生工作的通知」。
- (<http://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/bss/201401/20140122/739531051.html>, 2016.7.24)
- 李木洲・劉海峰、2011、「多元分解：保送生制度改革之道」『中國高教研究』12: 19-21。
- 梁晨・李中清等、2012、「無聲的革命：北京大學與蘇州大學學生社會來源研究（1952~2002）」『中國社會科學』1: 98-118。
- 劉海峰、2002、「高考改革的教育與社會視角」『高等教育研究』5: 33-8。
- 劉海峰、2011、「高考改革：公平為首還是效率優先」『高等教育研究』5: 1-6。
- 清華大學、2014、「『清華學堂人材培養計畫』改革與探索」。
- (http://www.moe.gov.cn/s78/A08/gjs_left/moe_742/s5631/s7971/201404/t20140404_166827.html, 2016.8.23)
- 清華大學招生辦公室、2015、「清華大學 2015 年語言類保送生招生簡章」。
- (http://join-tsinghua.edu.cn/publish/bzw/7544/2014/20141231163618805789323/20141231163618805789323_.html, 2016.8.29)
- 上海交通大學招生辦公室、2013、「上海交通大學 2014 年自主招生簡章」。
- (<http://www.gaokao.com/e/20131106/5279fd4bd1b01.shtml>, 2016.8.30)
- 上海市教育委員會、2013、「上海市教育委員會關於完善上海市普通高中學業水平考試制度的通知」（滬教委弁 60 号）。
- (http://www.shmec.gov.cn/attach/xxgk/64_35.doc, 2016.8.23)
- 上海市教育委員會、2015、「上海市教育委員會關於印發『上海市普通高中學業綜合素質評價實施辦法（試行）』的通知」（滬教委基 30 号）。
- (<http://www.shmec.gov.cn/html/xxgk/201504/402162015002.php>, 2016.8.23)
- 葉鉄橋、2012、「近 12 年保送生政策兩次大調整」『中國青年報』。
- 張濟洲、2015、「『高考工場』背後的階層焦慮與機會公平」『中國高教研究』9: 33-6。
- 張垂群、2014、「高考改革三大政策導向辨析」『湖北大學學報（哲學社會科學版）』1: 100-5。
- 浙江、2011、「會考成績折入高招總分」『中國青年報』。
- 中共中央組織部辦公室、2011、「基礎學科拔尖學生培養試驗計畫實施辦法」。
- (http://www.moe.gov.cn/s78/A08/gjs_left/moe_742/s5631/s7969/201210/t20121010_166818.html, 2016.8.21)
- 中國教育年鑑編輯部、2014、『中國教育年鑑（2013）』人民教育出版社。

中央財經大學官網、2016、「中央財經大學 2016 年保送生招生簡章」。
(<http://www.gaokao.com/e/20160223/56cbc4d666039.shtml>, 2016.8.10)